

ツチクジラ 太平洋・日本海・オホーツク海

Baird's Beaked Whale, *Berardius bairdii*



管理・関係機関

農林水産省

最近の動き

2015 年は、年間 66 頭の捕獲枠の下に操業が行われ 57 頭を捕獲して操業を終了した。

漁業の特徴

捕獲は少なくとも 17 世紀に遡り、明治時代初頭まで千葉県勝山沖を中心に手投げ鉤で捕獲していた。戦後、小型捕鯨業の捕獲が急増し、漁場も千葉県周辺から三陸、北海道、日本海沿岸まで広がった。本種は体長 10 m に達する歯鯨類だが IWC の管轄外種で、商業捕鯨モラトリアム以降も、我が国の自主管理の下に捕獲が継続している。現在の商業捕獲は大臣許可漁業の小型捕鯨業のみで、全国 4 か所（千葉県和田浦、宮城県鮎川、北海道網走、函館）の捕鯨基地で水揚げ・解体・処理されている。

生物学的特性

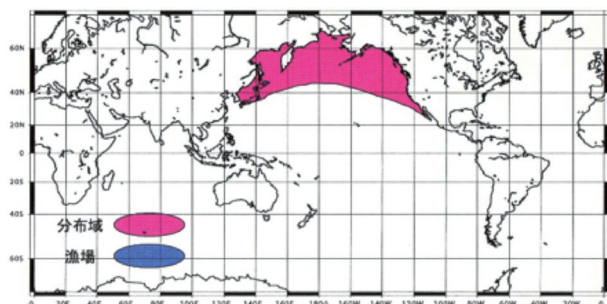
- 体長・体重：10～12 m・9～12 トン
- 寿命：雄 84 歳、雌 54 歳（捕獲物の最高年齢）
- 成熟開始年齢：雄 6～11 歳、雌 10～15 歳
- 交尾期・出産期：10～11 月・3～4 月
- 繁殖場：調査中
- 索餌期・索餌場：周年・房総、常磐沖ほか
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：シャチ

漁獲の動向

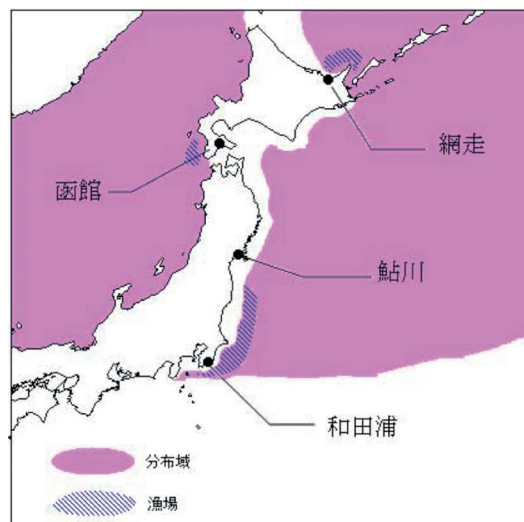
太平洋側沿岸の捕獲が主体であり、1950～1970 年代初頭にかけて年間 100 頭を超える捕獲がなされた（自由操業）。1983 年に自主規制枠、1990 年に捕獲枠が導入され、1999 年以降は、年間捕獲枠 62 頭（太平洋沿岸＋オホーツク海 54 頭、日本海 8 頭）が設置されてきた。2005 年に枠の見直しがなされ、系群ごとに太平洋 52 頭、オホーツク海 4 頭、日本海 10 頭、計 66 頭の捕獲枠が設置された。

利用・用途

肉は房総半島周辺でタレと呼ばれる乾肉、他の地域では、生鮮肉、缶詰加工用肉など。脂皮は汁物。



ツチクジラの分布図



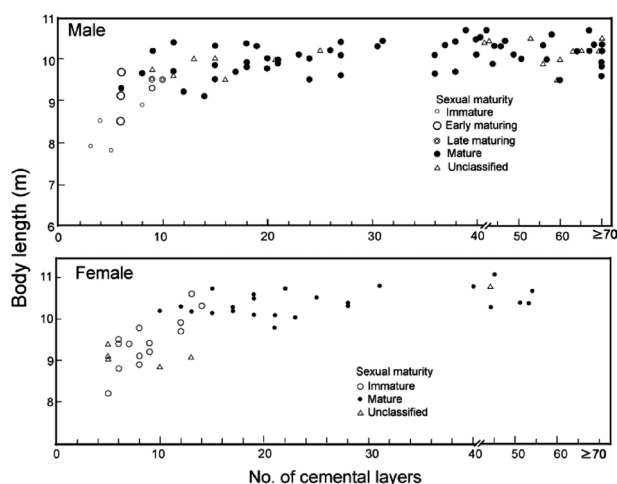
日本周辺におけるツチクジラの分布と漁場及び水揚げ地（捕鯨基地）

資源状態

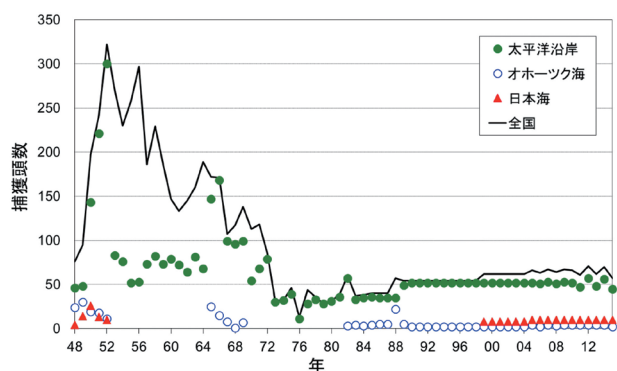
資源量の推定値は太平洋沿岸（北海道～相模湾）：5,000 頭(95% 信頼区間 2,500 ～ 10,000 頭：1991 ～ 1992 年)、日本海東部：1,500 頭（同 370 ～ 2,600 頭：1983 ～ 1989 年）、オホーツク海南部：660 頭(同 310 ～ 1,000 頭：1983 ～ 1989 年)である。IWC の管轄外種のため、資源状態に関する国際合意はない。過去の統計は別種の混在の可能性もあり、1970 年以前の捕獲が初期資源に与えた影響は明らかでない。各系群の資源量推定値は 5,000 頭以下と小さく、分布範囲も限られていることから、資源水準は中位とした。捕獲物組成の動向は、資源の増減の兆候がないことから、資源動向は横ばいと考えられる。

管理方策

IWC 科学委員会はひげ鯨類が対象の新たな資源管理モデル（改訂管理方式：RMP）を開発したが、社会構造が複雑な歯鯨類には適用できない。このため、同委員会に参加する専門家らの合意に基づき、推定資源量の約 1% を目安に、農林水産省が捕獲枠を設定している。この他、農林水産大臣の許可漁業として、海域ごとに、操業隻数（5 隻）、水揚地を定めている。



体長と年齢の関係（Kasuya et al. 1997 より）



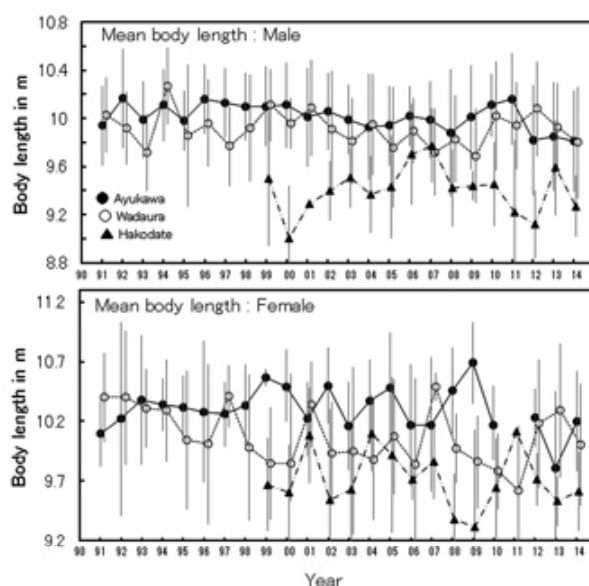
ツチクジラ捕獲頭数の経年変化
(1948 ～ 1993 年は粕谷（1995）、1994 ～ 2015 年は国際水産資源研究所データより作成)

資源評価のまとめ

- 各系群の資源量推定値は 1,000 ～ 5,000 頭程度と小さく、分布範囲も限られていることから、資源水準は中位。
- 漁獲物組成の動向には資源の増加ないし減少を示す兆候がないことから、資源動向は横ばい。

管理方策のまとめ

- 現在は推定資源量の約 1% を目安に捕獲枠を設定し捕獲物組成の動向をモニタリング。
- 将来的には、歯鯨類を対象とした資源管理モデルを開発し適用することが必要。



ツチクジラの平均体長の経年変化（木白、未発表データより）

ツチクジラ（太平洋・日本海・オホーツク海）の資源の現況（要約表）

資源水準	中 位
資源動向	横ばい
世界の捕獲量 (最近 5 年間)	な し
我が国の捕獲量 (最近 5 年間)	57 ～ 71 頭 平均：64.2 頭（2011 ～ 2015 年）
最新の資源評価年	2012 年
次の資源評価年	未定